

3年生を送る会

～3年生ありがとう～



3月13日(月)、生徒会主催で3年生を送る会が開催されました。暖かな雰囲気にも包まれ、しあわせな気持ちに。心が通い合う、うれしさ、思い出、強く抱いて。

2年生を中心に「すずめの戸締まり」をテーマに、会の終わりまで途切れることのない、物語が展開されました。映像と演出を駆使し、各学年の発表、部活動の発表が行われました。3年生からは「アンパンマンのマーチ」に乗せて、寸劇や合唱、メッセージが1,2年生に贈られました。また、なつかしい先生からのメッセージもありました。



【吹奏楽部による感謝の演奏】



【演劇部による「うさぎとかめ」】



【3年生によるアンパンマン】

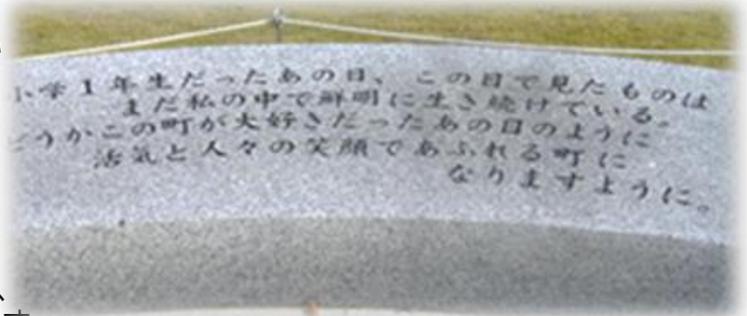
東日本大震災 ～12年のとき そして今～

3月10日(金) 校長講話より(一部抜粋)

2011年3月11日 12年前の明日、午後2時46分。
卒業式の数日前のことです。
東北地方を大地震がおそいました。
それが、あの東日本大震災です。
家の中の物は落ち、割れ、ガラスは飛び散り、食器棚も洋服ダンスも倒れてきました。
逃げたくても動くこともできません。頭を抱えてうずくまります。
そこに天井が落ちてきて、家も崩れました。
家族は大丈夫だろうか。焦る気持ちで、携帯電話をかけてもつながりません。
外には倒れた電柱、崩れた家々。逃げ惑う人々。そして、車。
しばらくして、海から波が押し寄せてきました。
その波はあっという間に大津波になって、襲いかかってきました。
津波は、人を飲み込み、車を飲み込み、家を飲み込み、町全体全てを飲み込んでいきました。
東日本大震災では、死者・行方不明者を含め、18,425人という多くの人々が犠牲となりました。

その中の一人が、木村ゆうなちゃん。当時小学1年生。
ゆうなちゃんの自宅は、福島原発の近く。ゆうなちゃんのお父さん木村紀夫さんは、生き残ったゆうなちゃんのお姉さんとともに、放射能から身を守るため、白馬に引っ越してきました。
木村さんは白馬にしながら、福島県大熊町の帰還困難区域まで、何度も何度も通い、見つからないゆうなちゃんを探し続けました。ゆうなちゃんが見つかったとき、震災から、すでに5年と9ヶ月が経っていました。
2017年 6年前の3月、白馬中をある一人の女子生徒が卒業していきました。
木村マユさん。そう、ゆうなちゃんのお姉さんです。

東日本大震災は、決して過去のものとなっているわけではありません。
今なお、避難所で一人で生活している人、ふるさとに帰りたいのに、帰ることが叶わない人が数万人もいます。
私たちは、東日本大震災を忘れるわけにはいきません。
昨年、一昨年に3年生が修学旅行で訪れた南三陸町の防災庁舎前の石碑には、つぎの言葉が刻まれています。(写真右)



東日本大震災から12年を迎えた今日、今、犠牲となられた、多くの方々のご冥福を祈り、追悼の意を捧げるため、今から黙祷を行います。

全校の皆さん、その場に起立しましょう。 東北の方角を向きます。 黙祷

